

令和5年度 第2回徳島県文化創造審議会 議事録

I 日 時

令和5年9月15日（金）午前10時00分から午前11時25分まで

II 場所

徳島県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】20名中12名出席

田村禎通会長、吉田和文副会長、阿部曜子委員、清水英範委員、鈴木アヤ子委員、永本嘉彦委員、西村美咲委員、美馬持仁委員、宮脇由里委員、森恵子委員、横畠亜希子委員、四十宮隆志委員

【徳島県】

佐藤泰司未来創生文化部長、益田英栄文化・未来創造課長 ほか

IV 次 第

1 開会

2 議事

(1) 「第2期 徳島県文化芸術推進基本計画」について

(2) 意見交換

(3) その他

3 閉会

V 議事の概要

事務局

議事1の資料について説明

会長

今、事務局から骨子案について説明がありました。委員の皆様には、それぞれの御活動等も踏まえて、御意見・御提言をいただければと思います。どうかよろしくお願いしたいと思います。

地域の活性化には、文化芸術の振興が必須であり、そのことによって若い人たちが定着し、また県外からたくさんの方がお出でしてくれるということにつながる。「人づくり」、「環境づくり」と「地域づくり」となってますけど、これは一体として取り組まないといけないことだろうと思いますが、いかがでしょうか。

委員

では、資料の中にもあわぎんホールの記載もございましたので、そこらへんも含めて、

口火を切るということで、発言をさせていただきます。御説明にもありましたように、コロナ禍が落ち着いてだいぶ文化芸術活動が回復したということで、あわぎんホールのここ数ヶ月の利用者数を見ても、約3万人ぐらいと、ピーク時に近い数字に戻りつつあるかなと、非常に喜ばしいことだと思っております。そして、今日も、全館貸し切りで大学系の学会が開催されており、数年ぶりということで、会長さんがおっしゃったように、地域の活性化だとか、そういうことも大きく進んでいるんじゃないかなと思っております。そして、そういう状況の中で、今回計画が改定される、第2期ということでお伺いしておりますが、現計画は上手に5本の柱ということでまとめられたんですけど、今回3つにするということでよろしいでしょうか。

それで、これを拝見させていただきますと、3つにして、非常に視点がスッキリしたかなという気がします。後継者の育成も踏まえて、あるいは団体の育成という大きな課題がある「人づくり」は、どうしても外せない柱だと思いますし、あわせてそのための場づくり、鑑賞機会の充実を含めて、そういう施設ものをどういうふうに造るかという「環境づくり」、そして、地域をどういうふうに絡めていくかという大きな「地域づくり」の視点。3つとも非常に大事だなと思っております。それぞれ事業展開を5本ずつ整理されておりますけれども、いかにこの中に革新的な施策といいますか、重要な中身を入れていくか、これが重要になってくるかなと思っております。以上でございます。

会長

ありがとうございました。ほかにどなたかご意見ございますか。どうぞ。

委員

失礼します。私の方からは1つ、1番最後にあります「文化部活動の地域連携・移行」でございますが、これは文化部だけでなく体育活動につきましても、令和7年度までに、まずは休日における部活動の地域移行というのが、今現在、教育委員会を中心に動いているところでございます。特に我々みたいな小さな過疎地域で言いますと、まず受け皿が非常に難しいという問題もあるのですが。また学校においても、なかなか文化部の活動っていうのが、実際中学校っていうのは少ないっていう実態もあるんですが。これを逆に捉えて、例えば地域にそういった受け皿を作ることによって、体育活動だけでなく、地域の人材を生かして文化部活動にもつながっていく可能性はあるんじゃないかなというふうに踏んでおります。ですから、例えば「アニメ等のメディア文化の振興」とありますが、美波町につきましては移住者が結構おりますので、そういったクリエイターを活用すると、アニメのクリエイティブな部分について、土日受け入れができれば、部活動としての活動が広がる、そういった視点が広がる可能性もあるということは、多分これは地域の大人、我々関係するものの力が今後は問われていくのかなと思っております。これは、すごく大きな可能性も含んでいるんですが、なんていうんですかね、悪い言葉で言うと事なかれ主義でいくと、地域の自治体の中でも格差が出ると思いますか、そういったこともあると思いますので、私個人的には、今回の活動の中にはこういったこと、これはここだけでなく中学校にもかかってくるので、すごく今回は大きな部分になってくるのかなと思っております。以上でございます。

会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

委員

お願いします。私は「文化芸術の鑑賞機会の充実」について、書道の面も含めながら、お話しさせていただけたらと思います。私は書道をやっているので、鑑賞というものに親しみを持っています。「鑑賞機会の充実」とあるのですけれども、鑑賞って結構幅広くあると思っていて、見る鑑賞だったり、聞く鑑賞、考える鑑賞、感じる鑑賞とか、色々あると思います。その中で、私自身が考える、徳島の文化芸術がより発展していくためには、感じる鑑賞というのを、ずっと高めていければいいのかなと思っていて。私は8月に初めて阿波おどりを見ることができました。その中で、徳島県の人たちの、県民性だったり、精神性っていうのを非常に強く感じました。その中で、徳島県の方は、そういった文化芸術の中で感じるということに関して、非常に長けていると感じております。ですので、鑑賞の中でも、種類をこう、ぎゅっとして、感じる鑑賞について、考えていけばいいかなと思いました。ありがとうございます。

会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか

委員

よろしくお願い致します。今の鑑賞のお話、例え、よく分かります。ありがとうございます。それで、少し私の方で感じたのは、3つの目標の真ん中の「環境づくり」。徳島の文化を感じられるということが、鑑賞にもつながっていると思います。様々な文化芸術を鑑賞する機会を、若い方、県民に提供するというのは、とてもよくわかるんですけども、それと同時に、ここの項目としては、半分はしっかりと、今、いろんなコンクール、それから小中学校、高校も色々な活動も再開されておりますので、その場をやはりいろんな形で増やしていく。鑑賞というのは、やはりどうしても受動といいますか、受けるほう。しかし能動的にする活動と一体化されているっていうのが、今の学習指導要領でもそうなんですけれども、やはり芸術文化の発表の機会、あるいは鑑賞の機会を充実させるというこの両輪を、教育の場では非常に大事にしているものなので。そのあたりも少し、どこかにそういうふうな、「発表」という言葉が適切かどうか分かりませんが、能動的に主体的に活動するっていうような、そういうふうな言葉を入れていただけたら、よりわかりやすいと思います。鑑賞だけじゃない、両輪であるっていうのを少し感じましたのでお話をさせていただきました。

会長

そうしますと、この「①文化芸術の観賞機会の充実」というところに、「発表の機会」を加えるということになりますか。

委員

そのほうが受け手としては分かりやすい。鑑賞だけですと、そういうふうな機会があったら、行って聞く、鑑賞には、委員さんもおっしゃっているように色んな鑑賞の仕方はあるんですけども。それとやはり主体的に、自分が能動的に活動する、「発表」という方が分かりやすいと思うんですが、その両輪の方が、これを見た時に分かりやすいんじゃないか、そういうような感じがいたしました。

会長

分かりました。他にいかがでしょうか。どうぞ。

委員

現計画の5つの視点、これも非常に分かりやすいなと思ってたんですが、けど、お互いが、関連し合って連動し合っているところがあるから、縦割りにならなきゃいいなと思って、そういう見方になったらいけないなと思ってたんですが、今度の計画は、その関連しているところを意識されているような気がします。例えば「人づくり」は現計画の1から5の全部に関わってくるような視点だと思いますので、今回の3点の絞り方が、私は非常にいいのではないかなと思います。御苦勞なさっているなというふうに思いました。その点と、計画全体のことにに関してですけど、一番の徳島の名題と言いますか、大きなテーマは、やっぱり人口の流出を防ぐ、徳島に人を呼び込む。そして、徳島がこれ以上寂しい県にならないように、文化を通じて徳島全体を元気にする。それが一番の名題だというふうに思います。それで、その時に大事になるのは何かというと、やっぱり徳島をより知ってもらうことだと思うので、発信の力というのは非常に大事だと思います。それがこの今回の3つの視点全部に、発信というのは3番だけに書いてますが、全部に関わってくることはないかというふうに思います。

例えば、前回の審議会でも、グローバル化のことについて言わせていただきましたが、多分ご存知だと思うんですけど、祖谷とか、そちらの方で、外国からのインバウンドが成功していて、韓国と台湾と香港から、たくさんの方が来られていると。それで、私も時々見るのですが、「ラーチーゴー！日本」といって、韓国と台湾の人がよく読んでいる日本情報発信サイトがあるんです。それで、そういうところで、日本そのものがどういう視点で見られているかというのも。それも大事じゃないかなと思ったのと、それと、これも多分ご存知だと思うんですが、「温泉総選挙」っていうのがあるんですね。「温泉総選挙」でここ数年ずっと祖谷がトップ、ないしは2位と。それはどの部門かということ、インバウンド部門なんですね。ファミリー部門とか、色々あるんですが。なぜ祖谷がインバウンドで成功しているかというところは、それは探ってみる必要がある。徳島全体にそれが応用できるように。そのインバウンド部門で祖谷がいつも1位になっていることの一つの要因ではないかなと個人的に思うことは、留学生のインターンシップとか、すごく熱心にやっています。それで、中国語と韓国語ができる留学生、でも、日本に対しての知識も関心もあり高い留学生を、祖谷に就職させる。だから留学生を徳島に根付かせるという視点も。例えば、四国大学だけでも160人の留学生がいます。徳大とか鳴教さんなんか、もっといらっしやると思いますので。もうコロナも明けまして、

どんどん増えてくると。シフトしているのは、やはりアジアの方です。ベトナムからもたくさんの方が、学生さんが来ておりますので、そういうことを考えても、それは人づくりにもつながってくるかもしれません。そういう留学生のインターンシップとかにも目を向けてもいいかなと思います。

それと、あまりここでは言われないんですけど、文化の中に、文化歴史と言いますか、歴史も含んでいいのではないかと。そうしますと、徳島の歴史はやっぱり、お遍路さんの歴史もそう、第一札所があるということ。それはすごいことだと思いますし、あと三好長慶の三好市。これは今、経済同友会が漫画を作って、うちの大学の先生が監修しているんですけど、何かそういう、織田氏よりも先に、日本を、近畿圏を統一しようとした、それを、もっともっと発信して、世の中の人、歴史が好きな人じゃなければあまり知らないかもしれないので、この文化の中に歴史も入れることができるんでしたら、もうちょっと三好市を全面に出しても良いのではないかなと思います。

この前のニュースで、高知が台湾との往復便を増便したと。増便とかは大変だと思いますので、そこまでいなくても、台湾とか香港とか、そういう興味を持っていそうな国に、そちらに向けて発信することも、ターゲットを絞るということも大事ではないかなと思います。

また、インバウンドだけでなく、今日の徳島新聞を見てましたら、「ろくえもん通り」が空き家がなくなったとありました。新町がさびれているのが寂しいなあと、ずっと子供の頃から丸新とか行ってた者にとっては思ってたんですけども、これはチャンスだな、上を向いている時のチャンスだなと思いますので、そこに学生とかを入れたりして、新町の商店街を文化の力で活性化させるということが、地域づくりや環境づくりにも関わってくるのではないかなというふうに思いますので、この3つの目標をまた連動させながら、徳島にはいいところがいっぱいあると思いますので、それを世の中に知らせてほしいなと思います。

会長

ありがとうございました。非常に大切な視点だろうと思います。特にグローバル化は、これから必須な状況だと思っています。それからちょっと気になりますが、この「あわ文化」って、一言で言ってるんですけど、今言われた、徳島の長い歴史上の文化の発展という視点も重要と思います。この「あわ文化」の定義と言いますか、これはどこかできちっとしておいた方がいいような感じもしますね。

他にいかがでしょうか、どうぞ。

委員

よろしく申し上げます。とてもコンパクトにまとめてくださったんですが、ちょっと理解ができないところがあります。それは事業展開で5点ずつ、整理をしてくださっていますが、その中身、内容がどうなっていくのかが、もっと詳しく知れたらという気持ちがありました。

それから、「徳島ファンの拡大」と「あわ文化の魅力発信」とか「グローバル化の加速」は、文化芸術の充実に、全部関係しているんです。実は、フランス在住でオペラ歌

手として「蝶々夫人」で世界の第一人者っていう方が、徳島市の鷲の門を寄贈された吉井ツル卫さんのお孫さんなんです。大村博美さんっていう方なんですけど、お母様が亡くなって、お墓参りに帰られて、ずっとご一緒をしておりました。12月にもまた帰って来られるんですけども。沢山コンサートも開いておりますし、NHKのお正月の新春オペラコンサートでは、国内と国外で活躍されるオペラ歌手の20人ぐらいのど真ん中でいつも歌っているのが大村博美さんなんです。大村さんを迎えて、色々お話も、一昨日から昨日にかけてしていたんですけども、そういう徳島出身で世界で活躍している人に、どう協力をしていただくかっていう視点が大事じゃないかなと思います。頑張ってくださいっている人、いろんな面で活躍している人もいますけれども、まだまだ知られてない人がたくさんいると思うんです。それで、徳島ファンを増やすには、そういう人の力を借りる。ものすごく徳島に愛着を持っておりますので、そういう人をそのままにしておくのはもったいないなあっていうのを、昨日も一昨日も感じましたので、そのことを、まずお伝えさせていただきたいと思います。

私は、今年、「阿波の歴史を小説にする会」の会長を受けまして、推進しておりますが、藤原正彦さんから、その土地の歴史や人物を取り上げて、小説にして、毎年発行しているっていうのは全国に例がないから、それが40数年続いている例がないから、高齢化があっても頑張ってもらいたいっていう激励をいただいたことがあります。その中で、歴史を紐解く中で、いろんな人物を紐解く中で、吉井ツル卫さんが出てきて、そこからのつながりで、今の大村博美さんとの人間的なつながりができました。だから、先ほど言っていた、文化の中に歴史を入れるということは、とても大事じゃないかと思いました。

もう一つだけお願いします。「地域文化を通じた郷土愛・地域愛の醸成」とあります。私は、言葉は分かりやすい方が、ずっといいと思うんです。「醸成」っていうのがどうも難しいんです。ピンとこないんです、意味が。皆さんわかりますか。私はわからない。他の「発信」とか「充実」とかは、わかるんですけど、この「醸成」という言葉、他にないかなと一生懸命考えたんですけど、浮かばないんです。ごめんなさい。でもこれ難しいのを理解しやすい言葉にしていただけたらと、今思っております。

会長

どうもありがとうございます。私も同感です。できるだけわかりやすい言葉で、中身がパッとわかるような、キャッチフレーズに近いものがあるんだろうと思います。今日は、骨子案の協議ですが、今度、これに肉付けをした基本計画の素案を検討することになります。歴史も踏まえた計画ができればいいと思います。「醸成」という言葉についてはいかがでしょうか。「郷土愛・地域愛の醸成」は、他に分かりやすいいい案ございますか。

委員

優しく言えば、「郷土愛・地域愛を育む」とか。ひらがなで。

会長

そうですね。他にございますでしょうか。

委員

失礼します。今回の基本計画骨子案、非常にコンパクトにまとめ上げられて、大変御苦労されたんだと思います。それで、読ませていただいて、すごく関連していて、徳島のファンの拡大とか、あわ文化が拡大すれば魅力発信がどんどんできていく。また、先ほど来、色々な意見が出てますけれども、「地域文化を通じた郷土愛・地域愛の醸成」っていうところから、あわ文化の魅力の発信ができるのではないかというふうに、非常に関連が深いように思います。これは今後、いろんな文章とか肉付けされて計画案の中に落とし込まれていくんだろうと思いますけれども、非常にまとめ上げられていると思います。

人形浄瑠璃に関しましても、小学校の教科書に、阿波十郎兵衛屋敷、阿波人形浄瑠璃が掲載されたということで、小学生の方々が団体で来てくださったりだとか。大人の方も、徳島の方でも、十郎兵衛敷に初めて来たとか50年ぶりとかいう方がいらっしゃるんですけども。改めて見てみると、こんないいものが徳島にあったんだというふうな感想をいただきますので。やっぱり徳島の人が徳島のいいもの知らない。「何かない？」って言ったら、「いや、何もないんでー徳島」すぐにそういうふうにみなさんおっしゃいますけど、本当にいいものがたくさんあるっていうことを、もっと県民の皆さんに分かっていただくような施策、そういうことも必要ではないかと。それが魅力を感じて外へも、県外のお友達にもお知らせできて、それが発信になるっていうことにつながると思いますので、郷土のことを、どんどん知っていただくっていうことも、非常に大切なことだろうと思います。

広報誌「OUR 徳島」に「あわっ子文化大使」っていうね、子供たちの感想とか、色々載ってます。毎月一回読んでますけど、その子たちも、知らなかったことがたくさんあるっていうふうに、いつも書かれてることが多いので、子供たちにも、徳島にいいものがあるんだっていうことを知っていただく機会というのがもっとあればいいかなと、今思っています。そういうことを次に書き加えていただけたらなと思います。以上です。

会長

ありがとうございました。案外、自分の足元っていうのは、よくわからないところがあるんですね。私も徳島生まれの徳島育ちなんですけど、阿波十郎兵衛屋敷の人形浄瑠璃も、その素晴らしさは、県外の人が、あれは非常にいいと言うのを聞いて、あらためて再認識するという感じですね。徳島の中心部から十郎兵衛屋敷までの「水上タクシー」は、徳島は「水の都」であることを実感できますね。川の文化っていうのは、もともと藍の産地っていうこともあいまって発達してきました。それが今、こういう形で「水上タクシー」というのは、徳島のよさを再発見できますね。川から見る景色は非常に魅力的です。

子どもが育っていく過程で、徳島の歴史・文化を、そして郷土の魅力を知ってもらう、

そして、今回の計画が、あわ文化のさらなる魅力の発信となるようにと願っています。
何か他にございますでしょうか。どうぞ。

委員

私も、今回の案は非常によくまとまっているし、よく考えられているなと思います。ただ、これを実際に運用するにあたってお願いしたいというか、視点ということで。文化って非常に幅が広いので、いろんな捉え方ができます。今のお話をずっと聞いていて、2つ大きな考え方があるなと。ひとつはやはり郷土に誇れる文化をしっかりと育てていきたい。そしてそれが、地域愛や郷土愛に結びつくもので、誇りを持てるものということで、「あわ文化」、これをしっかりと継承していきたいということにつながる。これは特にももちろん地元への回帰の促進もなるし、それから、観光客の誘客であるとか、そういったことにも繋がるという視点、これは非常によくわかりました。もう一つが、やはり人口減少ってことを視野に入れたときに、徳島で住みたいと、わざわざ来てくれる人もいますが、少なくとも、徳島から出て行って戻ってきたいという時に、一番大きいのは、やはり都会の方がいろんな文化に触れる機会がたくさんあるから、ということですね。だから、都会にいなくてもできるっていうことを、しっかりとやっていくってこと大事だと思うんですね。例えば、この文化芸術においても、いわゆる徳島らしさ、特質のある文化と、もう一つは、ユニバーサルな、例えば、クラシック音楽、ジャズとか、これは徳島だけじゃなくて、全世界的にいろんな地域でも行っているようなもの、こういったものも、やはり豊かな公演であったり、都会ほどではなくてもいいと思うんですけど、でも、少なくとも上質のものが見える。それはとてもやはり生活を潤すものになると思うんですね。ですから、今回の計画でいうと、その「文化芸術の鑑賞の機会の充実」、実際に自分たちができるっていうことも含めてですね、これもとても大事だし、また文化芸術の発展と充実っていうことにもなってくるんでしょうけども、一つには、この徳島の文化、「あわ文化」というものを育てる。もう一つは、その土台となるようなユニバーサルな芸術といったものについてもですね、それを鑑賞したり実践したりする場を広げる。この二つっていう視点は必要なんじゃないかなというふうに思ってます。ですので、特に若者にですね、そういった機会をしっかりと与えていただけるようなもの。今はあわぎんホールさんであったり、むらさきホールさんを使っただけのコンサートだったり、非常にありがたい。こういった良質のものが徳島にいても聞けるんだよと、そういったことなんですね。住みよい徳島っていうのをアピールするためには大事なんだということ。

最後一点だけ質問なんですけど、現計画の中で、「文化芸術団体の活性化」っていうのは、人材育成のところに入っていたんですが、これが、今回、「地域づくり」の方に入っている、この意図を聞きたいなと思います。もちろん、文化芸術団体の活性化っていうのも、いろんな文化芸術団体があるので、地域活性化につながるものもあれば、人材育成につながるものもあると。ですので、両方の意味があるっていうのは分かっているんですけど、あえてこれをここに持ってきた意図をお聞かせいただきたいと思います。

会長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

ご質問ありがとうございます。こちらの方に変更した理由としましては、文化芸術団体の催し、県の方でも色々、補助はさせていただいているんですが、やはりその催しが、那賀町であったり、色々な地域の1つの大きな催しになっていることが多いと思います。委員もおっしゃるように、後継者育成ということで、人づくりの観点もある一方、地域で伝統文化の催し物を行っていくというのは、地域づくりからの視点もあると。実は迷ったところでございます。ただ、先ほど来、委員の皆様からおっしゃっていただいているように、この施策というのがすべて関連しておりますので、すべて一度、現計画の5つの視点を分解しまして、一つ一つ分けて見直したところ、やはり、人、環境、地域づくり、それに分かれていくなど。その中で最も関連性が強いところに入れようと、そういう意味を持ちまして、この文化団体の活動というのは、まさしく地域の活性化、そういうものにも今後つながっていくのではないかとこの視点を持ちまして、この地域づくりに入れたところでございます。以上でございます。

会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

委員

今回の施策体系につきましては、委員の皆さんの意見にもありましたように、コンパクトでスッキリした形でまとまっていると思います。非常によく考えられて、3つ目標にされていると思うんですけども、やっぱり、関連している、つながりがあるというふうに感じております。それで、人づくりの中の「④若者参加の促進」ということは、環境づくりの「①鑑賞機会の充実」、先ほど委員もおっしゃられたように、感じる、っていうことをきっかけに、文化芸術に触れていくことにも繋がりますし、それで、若者が感じたことが、魅力発信につながったりっていうように、一つのことに對して、いろんな事業展開につながっていくと感じております。それで、3つの目標があるんですけども、その3つの目標が一つのサイクルになって、この事業というのは生かされていくのではないかと感じております。やっぱり若者の意見だったりってものを資源として、今までの伝統を継承をしていきながら、新しい魅力発信の仕方だったり、継承の仕方っていうのにつなげて、ますます誇りを持てる「あわ文化」につながっていけるような事業展開にさせていただきたいと思っております。以上です。

会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

委員

昨今ニュースになっていることで、一言だけ最初に申し上げますと、新ホールの報道

に関して、前回の第一回の審議会の時に、知事からお話いただいた状況とまた違う形でニュースになっていたので、若干驚いてるとこなんですけど。大ホールと小ホール、県と市で別々にするとかいう話にもなっておりますが、この辺りはやっぱり一本化、やっぱり首長が変わるごとに流れが変わるとか、あまり思わしくないんじゃないかと。これは改定計画の3番かなと思うんですけど、「文化と観光による経済の好循環」とあります。経済活動を行う基盤となる一つのハードウェアの中心になる部分でありますから、この辺はあまり右往左往するのはよろしくないのではないかなということ、最初に申しあげます。

それで、その上でまず、改定計画一番目の「⑤徳島ファンの拡大」というところですが、これはこの間、阿波おどりで徳島市さんがやられたSNSを活用したインフルエンサーへの働きかけというのがありまして。たまたま彼らがやってきた時は大雨で、非常に問題になった時期ではありましたが、SNS上では非常に、阿波おどりということで広まったということはあると思います。それのみならず、やはり先ほどおっしゃいました徳島出身で活躍されている方、私が知ってる限りのところでは、近いところで、デジタルワークのチームラボの猪子さんであるとか、あとユーフォーテーブルというアニメーション制作の近藤さんであるとか、それから東京で活躍してるんですけど、かつてはセーラームーンっていう90年代に流行ったアニメーションの監督をされて、実はそこからメキメキ頭角を現した幾原邦彦さんっていう、この方も小松島出身でありまして。非常に有名で、世界的に名のとどろく方はいっぱいいらっしゃるということで、そういった方々を、積極的に誘致するなり、活用していくということで、この「拡大」という一言に肉付けして、そういうのを見ていただくと、もうちょっと具体的になるのかなと。これは次回のことになると思うんですけど、一言申し上げます。

あと一点だけですが、2の「④グローバル化の加速」というところと、3の「①地域づくり・地域団体への支援」というところ、この二つに絡んでいく話ではあるんですけど、まずグローバル化の加速というところで、徳島発、徳島から打ち出したものの中に、国際的なコンペというのが少ないように思われます。全世界を対象としたコンペティション、今一番県で大きいのは、県の美術展と、四国放送が主催している放美展っていうのがあります。これらはもちろん開かれてはおるんですけど、国際的なコンペというところにはまだ至っておりませんので、この辺りも視野に入れながら、それを可能とするだけの助成というのはどうしても必要になってくると思います。今現在でも、高齢化や若手不足もあり、県展や放美展は運営が厳しくなっています。それを、どうにか切り開く上でも、やはり徳島県さんのお力というのが必要かなと思っております。

もう一つ、地域団体への支援ということに関連しまして、美術展、映画芸術等の鑑賞の機会ということにも引っかかってくる話ですが、非常に県内をスルーをする展覧会が多い。特に四国は、まず真っ先に飛ばされるっていうことが多いです。興味のあるものに関しては、我々もそうなんですけど、そういうのを検索できて、自ら能動的に参加できる時代ですから、そういったものには投資するというか、自腹を切って出かけていくっていうことを惜しまないっていうぐらい、エネルギーな方もいらっしゃるんですけど、それは非常にごく一部だと思うので。そういったことで、美術展だけでなく、例えば映画作品とかも、例えば、カンヌ映画祭ですごく話題になっているのに、徳島で

は絶対やらないっていうのがあります。そういったものを拾い上げてくれるというところがあっていいのではないかと。同時に映画館に関しては、今、徳島市内あるいは北島町、市から非常に近郊だけに限られたところしかございません。オンデオン座とか西の方にもあるんですけど、そういったことやっぱり西、南、やっぱり県内広く満遍なく、そういう映画芸術、展覧会、オンラインを使うという手もありますが、観光誘致というのを加味すれば、やはり県内にはない、そういう映画芸術に触れる機会を増やしていただけるとありがたいなと思います。以上です。

会長

ありがとうございました。ほかにご意見いかがでしょうか。

副会長

ありがとうございます。皆様のご意見拝聴いたしまして、ごもっともだと思います。まず事務局の方は基本的に第1期計画との継続性も意識しながら、また新たな切り口というのを模索する、非常に御苦労されたかなと思います。まとまっている、という御意見には、基本的には賛成でございます。ただ、今日、皆様のご意見にございましたような点に十分配慮していただきたいと思います。特に、発表の場の充実というようなお話は、私も同感でございます。これは、「人づくり」に入れるのがいいのか「環境づくり」に入れた方がいいのか、ちょっと悩むところなんです。例えば、徳島大学で、この9月5日に、JR四国との協定に基づいて、四国の国立4大学でコンペをやりまして、本学の総合科学部の2つのチームが金賞と銀賞を受賞しまして、石井町でツアーをですね、計画をします。これは遊山箱と又ん活とエシカル消費を掛け合わせたようなツアーなんですけど。それと上勝町の、これは銀賞なんですけど、環境配慮方の地域づくりということで、文化にも触れながら。学生は、こういう発表の場を与えられると頑張ってしまうというか、モチベーションが高くなる。脱線しますけど、本学ここ最近、学生発ベンチャー企業の設立が相次いでいます。これはIT等を活用した企業を目指す学生がビジネスコンテストで非常に優秀な成績とっており、「じゃあやってみるか」みたいなですね。アワードで一定の成績を取ると頑張ってくれるということが、若者には非常にありますので。ですから、その発表の場っていうのは非常に大事だと思いますので、「文化芸術の鑑賞機会の充実」の中に入れるのか、あるいは「人づくり」の「文化活動への若者参画促進」の中に入れるのかわかりませんが、何らかの形で取り入れていただきたい。あと、歴史ですね、歴史の話もおっしゃる通り、これもやっぱり、文化と歴史っていうのは切り離すことができないと思いますので、どこかで。「あわ文化」っていう定義の中できちんと入れ込むのか、これはまた、ご検討いただければありがたいです。

それと、先ほど「醸成」っていう言葉が非常に分かりにくいと、「育む」としたほうがよろしいんじゃないかというお話でございます。ただこれ、事業展開の小見出しを、そういった形で動詞止めにするのか、体言止めで統一するのか、総合的に考えていただいて。バラバラ感もよくないので、どちらかに統一していただければ。「育む」みたいな柔らかい言葉で分かりやすい言葉もよろしいのかとは思いますが。またご検討いただければと存じます。ありがとうございました。

事務局

副会長から二点ほどいただいております。ありがとうございます。発表の場、おっしゃるように非常に重要でございます。学生の方も発表することによって成長していくということは、本当にあると考えております。一方、学生だけでなくですね、ちょうどコロナ禍が終わって、生け花、華道展がようやく開催された時に、華道展の先生の皆様方が「ようやくこれで発表ができる」と。やっぱり社会人の方も発表して、皆さんが見てくれる場があってこそ、一回一回の練習に力も入ると、非常に発表の場というのは重要、社会人にとっても重要なものと考えております。おっしゃっていただいておりますように、学生だけではないので、できましたら、この「文化芸術の鑑賞機会の充実」、最初おっしゃっていただいたように、鑑賞の機会の充実とともに、発表の場、というのは、ここに入れさせていただけたらなと事務局の方は考えております。

あと、もう一点ですね。文化と歴史、切っても切れない形になるんですが、「あわ文化」の定義、会長から申し上げていただきましたが、最近アニメとかも文化になりまして、「あわ文化」は、過去からある徳島のものだけというところも、ちょっと違うところもあります。新たな展開で藍染めの方を発信していくというのもございます。実は、「あわ文化」の定義もいろいろ考えたんですが、ガチっとしてしまうと、時代の変化になかなか対応しにくいというのもございまして、「あわ文化」という一般的な呼び方で収めているところでございます。ただ、おっしゃっていただいたように、歴史というのは非常に大事なところでございますので、次の素案の中で、徳島の歴史ですね、記載してまいりたいと考えております。

委員

すみません、まとめていただいたところで申し訳ないんですけど、皆さんのお話を聞いていて、ハッと思ったことがありますので。文化の定義にも入るかもしれませんが、食文化、和食がこれだけブームになっていて、インターネットとか見ていると、外国人の方が関心があるのは、やっぱり食文化だと思いますので。その食文化という視点は、あんまりなかったように思います。それは入れることは可能でしょうか。

事務局

この計画は、文化の視点を中心にした計画でございまして、実はこれ以外にも、観光戦略であるとか、様々な視点を中心にした計画がございまして、食になりますと、商売っ気があると言ったら、ちょっと申し訳ないですが、どちらかというところ経済重点になりますので。そういう意味で言いますと、こちらは純粋に、昔からの文化、その文化活動を中心として、地域活性化であったり経済活動の活性化というところが関連分野として、計画に入れているということがございまして、正面から食文化というのは、実は今まで取り上げていなかったところでございます。以上でございます。

委員

この3つの目標と事業展開は理解できるんですが、それと関連したいちばん左の、「3つの視点」というのがあります。いちばん最初、「自立的・持続的な発展まで目指した

人材育成や活動支援」、この説明がとても難しい。それで、これがなくても、「徳島の文化を担う人づくり」があって、右に事業展開があれば、この「3つの視点」で言いたいことが、右の方に全部入っているのではないか。「3つの視点」を抜いたほうが、すっきりするんじゃないかなと思います。一生懸命作られたのに悪いんですが、ここがあったら、ちょっと難しい、理解しにくいなという感じがしました。すみません。

会長

いかがでしょうか。今の御意見に対して。

委員

よろしいですか。今のその3つのっていうところで、「3つの視点」と「3つの目標」ですけど、改めてずっと見ていると、これ、逆でもいいんじゃないかなというふうに思ったんです。つまり、「3つの視点」の方に、1番目である徳島の文化を担う人づくり、あるいはもっと言えば「3つの視点」というところは、1番目は「人づくり」、2番目は「環境づくり」、3番目は「地域づくり」っていうふうにして、「3つの視点」のそれぞれの文章を、「3つの目標」に全部置き換えても成立するんじゃないかなという。勝手に思ってしまった次第です。以上です。

会長

こういう風に、視点と目標と事業展開を分けたところを、事務局からご説明していただけますか。

事務局

現計画は、目標と展開ということでございました。今回も、目標と事業展開とすると、非常にスッキリはするとは思ったんですが、「人づくり」「環境づくり」「地域づくり」に対する説明は一言入れておきたいなと、「3つの視点」というので、左に入れたところがございます。今、委員おっしゃっていただいたように、目標をボンと、非常にわかりやすい目標がありますので、これを左の方に持っていく。視点として入れるというのでも大丈夫かなと思いますし。目標は、この3つを目標として、その説明というので。視点という言葉が、わかりにくいところもありますので、この説明、副題というような形というのでも大丈夫だと考えます。皆様方のご意見をいただいたら、改めて提案させていただけたらと思います。

委員

すごく細かいことですが、それでも、「持続的な発展まで目指した」というとややこしいので、「発展を目指す」とか、もうちょっとスッキリしたらどうでしょうか。

事務局

ありがとうございます。その点も、合わせて考えさせていただきます。先ほどの「醸成」につきましても、事業展開のところ、すべて体言止めにさせていただいております

ので、考えて、また提案させていただきたいと思います。

会長

色々沢山意見が出ました。今回いただいた意見をもとにですね、この骨子案を少し、もう一度考え直していただいて、それを元に、基本計画素案ということで、次回進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして議事2の意見交換なんですけども、ここはどうぞ、ご自由にいろいろ、文化芸術の振興ということで、ご意見、この際言っておきたいということがございましたら。お話いただけたらと思います。いかがでしょうか。

話題の新ホール、それから、あわぎんホールですね、これが結局、文化芸術を育む場、シンボルになると思うんですよね。いずれにしましても、色々議論も行われ、これから県議会でも議論されていくんですけど、この基本計画の中で言えることは、とにかく、新ホールが徳島の文化芸術の一つのシンボリックな存在になるように期待しているところです。県民そして県外、また外国のたくさんの人に利用していただけるような他県に負けない立派な施設にさせていただきたいと願っています。その点はこの審議会としてもいえるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

委員

これもそれぞれに考え方もあることですが、総じて言えることは、今会長さんおっしゃったように、シンボルですよ。ここまで大きく取り上げられている以上、県民、特に私、若い人の話よくするんですけど、若者から見て、いわゆるがっかりするようなものじゃなくて、ワクワクするような。建物だけじゃなくて、そこでの催し、何ができるかということですよ。例えば、私は学校関係者だったので、やっぱり中学校、高校、小学校も含めてですね、四国大会、全国大会が開けないっていう、その辛さっていうのを、ずっと思っているんですよ。いろんな大会がありますので。やはり全国や四国から招いたときに、「あっ、こんなホールあるんだな」って言うてくれるっていうのを、期待をしてしまいますよね。一方的な意見かもしれませんが。それはやっぱりありますよね。どういうものを催すのか、どういうことをするのか、それに応じたものを造らないといけないのかなっていうね。前も、お話しありましたが、中身をよく考えていただきたい。造ったけど来てくれないっていうのでは困るんでね。実際、呼びたいものが来てくれるものっていう、それがやっぱり大事なんではないかなっていうふうに思いますね。

会長

ありがとうございます。ほかに何かこの際、どうぞ。

委員

資料2の2枚目に参考数値というのを書いてくださっています。あわぎんホールと文学書道館と十郎兵衛屋敷の利用者数に関して記載してくれています。それで、博物館はどんなのかなっていうのが気になりました。今数値を上げてっていうんじゃないんです

よ。博物館が気になりました。もう一つは県立図書館なんです。あまり知られてないのは、県民一人に対する蔵書数とか県民一人の貸出数とかは、徳島県の県立図書館は全国で3位なんですね。とてもいい成績なんです。けど、そういう、いいところもあるっていうのを、あんまり県民が知らない。だから、どういうところでこういうのを活かせるかなって、今ちょっと思った次第です。

会長

ありがとうございました。参考数値を次回入れていただきたいと思います。

それではこれで、全体の議事は終了したいと思います。議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。事務局にお返しします。